

「めざせ！かけ算名人（かけ算）」

1 提案の主張点

本単元で育てたい数学的な考え方は、

- A 学習にかかわる数学的な考え方
 - B 問題解決の過程にかかわる数学的な考え方
 - C 実生活での合理的な営みを支える数学的な考え方
- である。個に応じた指導として、既習事項を教室や算数コーナーに掲示したり、具体物を捜査する活動を多く取り入れたりした。さらに、コンピュータを取り入れたT・T指導も取り入れた。また、課題解決能力と共感性を培う単元計画や場面設定の工夫も行った。

2 - 1 「おやっ」と思うような場面を設定し学習意欲を高めている。自力解決の時間を確保し、自分の考えをしっかりとったうえで、話し合うようにしている。

2 - 2 日頃から、間違ふことはよいことだと言っている。自分の考えをペアで話し合うことで、お互いのことを次第に知ることができると考えている。

2 - 3 自分の考えをペアで話し合い、考え方の良さをペアの児童に紹介してもらうことにより、自信をもたせたいと考えている。

2 - 4 2×3 の問題作りがうまくできない児童にはヒントコーナーの具体物を操作させて、考えさせた。作った後、ペアで問題を修正する時間を設けた。

2 提案に対する意見

Q 2年生において課題を具体的にもつということを教師としてどんな風に把握できているのか。

A 授業後、または授業中に児童にアンケートを取って本時の学習問題をきちんと理解しているのかどうかを知ることができる。

Q ペア学習は、共感性を培うために有効だったか。

A 自分の考えをしっかりとった後、ペア学習を取り入れると、自分の考えを分かりやすく伝えようとしたり、友達の考えをしっかりと聞こうとしたりする態度が育ってきているので、課題をみんなで解決しようという雰囲気になる。

- ・ 児童が発表する際に既習内容をきちんと入れて話すことができていた。これまでの学び方が生かされていたと思う。
- ・ 「だって・・・」など接続詞を使って発表できてい

る児童が多くいた。

Q いつも集団でどう考えを練りあげていっているのか。

A いろいろな考えを前に出して、類型化をしていく。そして、今回はどこが同じか、またはどこが違うかを見つけていっている。

- ・ 九九を唱えるだけでなく、工夫して学んでいたので、ぜひ自分の学級でもやってみようと思う。
- ・ 間違った考えを取り上げた時の取り扱いが難しいと思うが、今日は、「～さんは、～な風に言いたかったんじゃないかな。」と上手にフォローをしていた。

A 「まちがっても良い」という詩をいつも読んで、クラスみんなが互いに直し合っていくから大丈夫と声かけをしている。

3 御指導

毎日の積み重ねが、どのクラスの授業からも感じられた。学級経営をきちんとしておくことが大切だなあと改めて感じさせられた。

2 - 1 パソコンを上手に利用し、視覚的に「おやっ」と思わせることが有効であった。そのことで児童の意識をつかみ、一人一人の考えをしっかりとらせることができた。

2 - 2 まちがった考えをもった児童を取り上げ、上手に考え方に深まりや広がりをもたせることができた。担任の話にもあったように、日頃から、まちがっても大丈夫なんだという指導があつてのことだと思う。

2 - 3 7の段の九九を作る際に、既習事項でつかえるほ方法はないかと考えたり、いろいろな考えができたらいんだよという保障をしたりできていた。

2 - 4 パソコンで図を作り、ほとんどの児童が 2×3 の式にあうような問題作りができていた。～ずつという言い方がきちんとできていた。

集団の練りあげも大切だが、一人一人の学びを保障していくことが、算数嫌いをなくすことに必要だと思う。ペア学習の際のマニュアルを作っていってはどうか。また、いつもペアではなく、計画的に取り入れる時とそうでない時を考えておくと良い。学年の重点事項を決めてそれに近づけるためにどんな指導が必要かを考えていることは素晴らしい。

